平成 24 年 7 月 25 日

各　　位

会 社 名　一 正 蒲 鉾 株 式 会 社
代表者名　代表取締役社長　野 崎 正 博
（JASDAQ　コード番号 ２９０４）
問合わせ先 取締役管理部長　滝 沢 昌 彦
（TEL　025 － 270 － 7111）

平成 24 年６月期通期業績予想と実績との差異ならびに特別損失の計上に関するお知らせ

平成 24 年６月期通期（平成 23 年７月１日～平成 24 年６月 30 日）の業績について、平成 23 年７月 29 日に公表いたしました業績予想との差異が発生いたしましたのでお知らせいたします。

また、生産拠点の統合に伴い特別損失を計上いたしましたので、その概要も併せてお知らせいたします。

記

１．平成 24 年６月期通期業績予想と実績との差異

(1) 連　結

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	29,800	1,270	1,300	680	73.41
今回発表予想（B）	30,769	1,901	1,883	725	78.33
増減額（Ｂ－Ａ）	969	631	583	45	－
増減率（%）	3.3	49.7	44.9	6.7	－
（ご参考）前年実績（平成23年６月期）	29,636	1,541	1,522	157	16.95

(2) 個　別

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	29,200	1,080	1,050	540	58.27
今回発表予想（B）	30,020	1,606	1,547	637	68.78
増減額（Ｂ－Ａ）	820	526	497	97	－
増減率（%）	2.8	48.8	47.3	18.0	－
（ご参考）前年実績（平成23年６月期）	29,032	1,247	1,232	5	0.54

２.通期業績予想との差異が発生した理由

（１）連　結

売上高につきましては、主力部門であります水産練製品・惣菜事業において、上半期における異常気象の影響ならびに消費者の節約志向・低価格志向の高まりによる販売面への影響もありましたが、一層強まる内食化傾向のニーズに対応すべく「バラエティー感」「季節感」「経済性」をコンセプトにした新商品・リニューアル商品の投入や新レシピの提案など、主力商品の販売強化ならびに販促企画の推進による拡販施策を積極的に実施してまいりました。

きのこ事業におきましては、原子力発電所事故による放射能汚染の風評等により、茸市場は需要が低迷し価格は軟調に推移したため、販売促進強化および新規顧客の獲得により販売量は計画を上回りましたが、売上高は計画を下回る結果となりました。

以上により、売上高は 307 億 69 百万円(前回予想比９億 69 百万円の増加)となる見込みであります。

営業利益・経常利益につきましては、売上高の増加ならびに当社グループ全体における生産性向上への取り組みに加えて原材料価格の鎮静化などもみられた結果、営業利益は 19 億１百万円（前回予想比６億 31 百万円の増加）、経常利益は 18 億 83 百万円（前回予想比５億 83 百万円の増加）となる見込みであります。

また、業務の効率化や経営資源の有効活用を図るため、老朽化の進んだ生産拠点の統合等による減損損失2億10百万円を特別損失に計上したことにより、当期純利益は７億25百万円（前回予想比45百万円の増加）となる見込みであります。

（２）個　別

主に「通期業績予想との差異が発生した理由（１）連結」に記載のとおりであります。

３．特別損失の計上

（１）減損損失関連

平成 23 年 10 月に、カニ風味蒲鉾の主力生産拠点でありました江口工場(新潟市江南区)を、主に本社工場(新潟市東区)に統合したことにより、減損損失１億 69 百万円(個別・連結)を計上いたしました。

また、当社が保有している有形固定資産のうち「機械装置」等について減損の兆候が認められたため「固定資産の減損に係る会計基準」に従って、減損損失 41 百万円(個別・連結)を計上いたしました。

※上記の予想は現時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以　上